

《第19回助成事業成果発表資料》【発展部門】2022/05/13付

① 団体名: **広島なずなの会**

団体紹介: ・無農薬・無化学肥料の野菜作りを通して、循環農法の考え方を理解し、土に触れる環境の中で実践する。  
・地球・食・身・体・心・生き方はすべては循環の中にあることを理解し、実践する。  
・多くの人が幸せな人生を送られるように「循環」に沿った生き方を伝える。

② 活動状況:

- 1) 「例会」の定期開催 毎月第4土曜日 18:00~20:00
  - ・会員、未会員問わず、毎回20名前後参加
  - ・例会内ミニイベント及び勉強会 ・会員活動報告
  - ・会員相互の開かれた対話と見える化と情報共有を重視。
- 2) 「なずな菜園」にて野菜づくりを、西区己斐上「市民菜園」にて毎月適宜実践
  - ・誰でも参加可能で毎回10名前後参加
  - ・四季の旬の野菜をタネ蒔き苗植えから育てて収穫の喜びを体感する。
  - ・自分たちで育てた野菜は自分たちの体に最高の栄養をもたらしてくれる体験
  - ・SDGsのフードロス意識した実践活動(無駄に捨てるものはなにもない、雑草、野菜くずの堆肥活用、半自給自足で自立した食糧確保)
- 3) 「かがり灯プロジェクト」後援参加 毎年8月5日開催、原爆ドーム前・元安川に筏を浮かべかがり火を焚き、平和都市広島から世界に平和を語りかけるイベントで、2021年は感染予防のため積極的告知を控え鑑賞者は例年より少なかったが、その模様は翌朝各新聞紙面に掲載され、次年度に繋ぐイベントとしては成功した。
- 4) 「食と農の映画祭」実行委員会 構成団体として毎年開催 2/22から28まで横川シネマにて七日間開催、延べ1,291名鑑賞
  - ・2022年テーマ「SDGs~みんなで幸せになろう!」のもと無事開催、来年に繋ぐ
- 5) 「家庭菜園ワークショップ」3/5(土)第1回西区観音新町にて実施。  
「プランターから始める家庭菜園」未会員の家族、子ども達を中心に総勢20名が参加
- 6) 「防災教室(ロケットストーブ体験会)」3/19(土)佐伯区美鈴が丘東にて実施。  
災害に備えて生きる力を身に着ける実演体験会。計20人参加  
《内訳:会員5人+未会員家族(大人7人+子ども8人)》

③-1 活動成果

- 1) 例会にて、情報共有、意見交換など視野の広い様々な考え方を学ぶ機会が得られた。
- 2) 野菜作りを通して、今まで興味や関心が有っても体験する機会がなかった参加者に、土や虫、太陽に触れ、昔の知恵や技術を知り、自分自身で育てる喜びで健やかに生活する力、生きる力を身に着け、安心安全な暮らしを見直していく機会が得られた。
- 3) 昨今の社会情勢により希薄になってきている人間関係(人と人とのつながり)を活動を通し「開かれた対話」でストレスの少ない過ごし易い生活を取り戻すキッカケになった。
- 4) 念願の若い親子参加者となずなの会員とで災害時炊き出し実践を達成。薪割り、着火などは中々上手いかず、みんな夢中に実践体験。大規模大災害発生時は長期の炊き出しが必至。その非常時対応可能なロケットストーブかまど型を一家に一台備えておこうと意欲ある家庭もあった。

③-2 今後の課題・展望など

- 1) 世代間交流を実りある活動として持続するには、年間計画定期開催が不可欠なのでコンテンツをさらに充実させ、ロコミ集客でリピーター含め、継続拡大を目指す必要がある。
- 2) 別分野の活動団体とのコラボ企画を提案し、例会に招待や他のイベント参加で門戸を広げ、固定概念にとられない多様性のある幅広い交流を増やす。
- 3) 大人も子どもも夢中になれる木工教室の開催、今期は公民館など公共施設が使えず、子どもたちも活動自粛時期もあり、実現できなかったが、今後は「自分で作ったものを大切に使う。ものを大切に資源を大切にすることを学ぶ。」をテーマに実現に向けて企画していきたい。

1) 毎月開催 例会 4/23(土)



2) 2021/11/20(土)なずな己斐上菜園収穫日



3) なずな己斐上菜園にて 4/17(日)



4) 同左 草取り 4/17(日)



5) 家庭菜園ワークショップ 3/5(土) 子ども参加



6) 防災教室・体験会3/19(土)子ども参加

